

田平北小 学校だより

# 瓊水薫風

令和元年6月20日

文責 校長 丸田 邦博

いい顔  
いい声  
いい心

## 6月9日 少年の主張大会 北小代表 中倉翔真くん!

「だれもが幸せにくらせる町づくり」

田平北小 6年 中倉翔真

みなさんは、この町平戸をどう思いますか。ぼくは、緑が多いし、食べ物豊かでおいしいものがたくさんある町だと思います。その平戸市がもっともってだれもが幸せになることを願って二つのこととお話します。

一つ目は、平戸の自然についてです。ぼくは休みの日に兄弟と森へ行ってカブト虫やクワガタ虫を探したり、おにごっこなどをしたりして遊びます。そのとき、土のおいしさをかいだり、日差しを浴びながら木かげで休んだりして、たくさんの自然を感じます。おじいちゃんちで育てたきゅうりやさつまいもを食べたとき本当においしいと感じました。それに、おじいちゃんが海で釣ったアジやヒラメはとてもおいしいです。

でも、釣りをするたびに気づくのです。毎回、たくさんのゴミが捨ててあることに。森にも空き缶や生ゴミが多いことに。自然豊かで、すばらしい平戸なのに、ぼくたちの手でよごしていつているのです。

ぼくは平戸が大好きです。この平戸をよりよくするために、ぼくたち一人一人が今できることを考えていかないとはいけません。

そう考えたとき、4年生で学習したクリーンセンター見学のことを思い出しました。缶を何十個も集めて、ぎゅっとかためて、アルミやスチールのかたまりにしたり、ガラスびんなどを細かくくだいてリサイクルにまわしたりしていました。そこで働いている人に、一日にたくさんのゴミが出ていることを聞きました。一人一人が出すゴミの量を少なくすれば、この町も住みやすくきれいになると思います。

また、コロッケ先生こと小六信和さんに紙のことを教えてもらったことも思い出しました。いらぬ紙を使ってハガキを創ることを教えてもらったり、「紙はゴミじゃない!」という合言葉をもとに、むだ使いをしてはいけないことを学んだりしました。

身近にあるトイレットペーパーやわりばしなどをむだ使いしないことが緑を増やす第一歩にもなると思います。

二つ目は、助け合うことです。

ぼくが通う田平北小学校には、いくつかの特別支援クラスがあります。その友達と交流するとき気づいたことがあります。それは、いつもその人の気持ちになりきって話したり、やさしく接したりしたら相手も笑顔になるということです。

耳が不自由な友達は、補聴器をつけています。ぼくは友達がわかるように、はきはき大きな声で言います。そうしたら、しっかり反応してくれます。友達も助かると思います。また、ぼくより少し理解が遅い友達には、少しでもみんなとっしょに活動できるよう、一つ一つ丁寧に教えて、相手がわかるように言葉や身ぶりで伝えます。ぼくも伝わりとうれしくなります。だから、みんなで助け合って不自由な人でも安心してくらせる町を目指せると思います。

もうすぐ田平中にも佐世保支援学校北松分校ができるそうです。耳が聞こえにくかったり、うまく体を動かしくなかったりする友達にも、今まで以上にうれしいサポートをしてもらえると思います。そうすることで、体が不自由な人でも安心できるし、いっしょに活動する機会が増えると思います。

ほんのちょっとしたこともかもしれません。ですが、このことを一人一人が意識して実行すれば、この平戸もさらによりよい町にすることができると思います。みんなで協力し合っていきましょう。そして、「だれもが幸せにくらせる町づくり」を目指してがんばっていきましょう。



実に堂々と凛とした発表でした。北小代表の翔真くんを誇らしく思いました。「挑戦」する姿勢、やり遂げようとする強い気持ち、そして、体験から溢れ出る思いと実践。うれしい子ども姿です。